

# ユークリート床の耐薬品性

薬品	濃度 (%)	温度 (°C)	UD200SR DP/MT/MF
<b>無機酸類</b>			
ホウ酸	飽和	20	○
クロム酸	10	20	○
	20	20	○
	30	20	○
塩酸	10	20	○
	10	60	○
	37	20	○
フッ化水素酸	4	20	○
	20	20	△
硝酸	5	20	○
	30	20	○
	65	20	△
リン酸	5	20	○
	40	85	○
	50	20	○
	85	20	○
硫酸	5	20	○
	30	60	○
	50	20	○
	98	20	△
発煙硫酸	—	20	△
王水	—	20	△
臭化水素酸	48	20	○
<b>有機酸類</b>			
酢酸	10	20	○
	10	85	○
	25	20	○
	25	85	△
	40	20	○
(氷酢酸)	99	20	△
アクリル酸	100	20	○
アジピン酸	飽和	20	○
クエン酸	20	20	○
	60	20	○
ギ酸	40	20	○
	70	20	○
	90	20	△
	100	20	△
フマル酸	飽和	20	○
乳酸	5	20	○
	25	60	○
	85	20	○
	85	60	○
マレイン酸	30	20	○
りんご酸	50	20	○
メタクリル酸	飽和	20	○
オレイン酸	100	20	○
	100	80	○
フェニールスルホン酸	10	20	○
チオグリコール酸	100	20	○
無水マレイン酸	100	20	○
無水酢酸	100	20	△
ラウリン酸	100	60	○
シュウ酸	5	20	○
ピクリン酸	10	20	○
	50	20	○
サリチル酸	飽和	20	○
ステアリン酸	100	80	○
トルエンスルホン酸	100	20	○
トリクロロ酢酸	100	20	△
安息香酸	100	20	○
クロロ酢酸	10	20	○
	50	20	△
デカン酸	100	20	○
	100	60	○
アセトアルデヒド	100	20	○
ホルマリン	40	20	○
没食子酸	100	20	○
酒石酸	飽和	20	○
グリコール酸	100	20	○
ヘブタン酸	100	20	○
	100	60	○
<b>アルカリ類</b>			
水酸化アンモニウム	28	20	○
苛性ソーダ	20	20	○
	20	90	○
	32	20	○
	50	20	○
	50	60	○
	50	90	△
水酸化カリウム	50	20	○
<b>アミン類</b>			
アニリン	100	20	○
モノメチルアミン	100	20	△
酢酸アミル	100	20	○
N-N-ジメチルアセトアミド	100	20	×

薬品	濃度 (%)	温度 (°C)	UD200SR DP/MT/MF
<b>塩類</b>			
硫酸アルミニウム	50	20	○
硫酸アンモニウム	50	20	○
硝酸アンモニウム	50	20	○
硫酸銅	飽和	20	○
	飽和	25	○
硝酸マグネシウム	50	20	○
重クロム酸カリ	飽和	20	○
次亜塩素酸ソーダ	15	20	○
塩化カルシウム	50	20	○
硝石灰	飽和	20	○
次亜塩素酸カルシウム	飽和	20	○
塩化ナトリウム	飽和	20	○
<b>溶剤</b>			
アセトン	100	20	△
ブチルアルコール	100	20	○
二硫化炭素	100	20	△
四塩化炭素	100	20	○
クロロフォルム	100	20	△
シクロヘキサン	100	20	○
二塩化エタン	100	20	△
灯油	100	20	○
メチルアルコール	100	20	○
メチル変性アルコール	100	20	○
塩化メチレン	100	20	△
メチルエチルケトン	100	20	△
メチルメタクリレート	100	20	○
モノクロロベンゼン	100	20	○
パークロロエチレン	100	20	○
石油	100	20	○
スチレン	100	20	○
	100	25	○
トルエン	100	20	○
トリクロロベンゼン	100	20	○
トリクロロエチレン	100	20	△
ホワイト・スピリット	100	20	○
キシレン	100	20	○
	100	25	○
エチルアルコール	100	20	○
ガソリン	—	20	○
ベンゼン	100	20	△
酢酸エチル	100	20	△
二塩化エチレン	100	20	△
ヘキサン	100	20	○
イソプロピルアルコール	100	20	○
N-メチル-ピロリドン	100	20	×
テトラヒドロフラン	100	20	△
変性アルコール	—	20	○
<b>その他</b>			
ビール	—	20	○
血液	—	20	○
カプロラクタム	20	20	△
ひまし油	100	20	○
クレゾール	5	20	△
	100	20	△
原油(クウェート産)	100	20	○
油脂	100	20	○
	100	80	○
ホルマリン	40	20	○
グリセロール	100	20	○
過酸化水素	20	20	○
	30	20	○
牛乳	—	85	○
鉱油	100	20	○
フェノール	5	20	△
プロピレングリコール	100	20	○
砂糖水	30	60	○
尿素	20	20	○
	50	20	○
エンジンオイル	—	20	○
タールオイル	—	20	○
植物油	—	80	○
蒸留水	—	85	○
天然オイル	—	20	○
洗剤(酸性)	—	20	○
	—	80	○
洗剤(アルカリ性)	—	20	○
	—	80	○
ジェット燃料	—	20	○
プレーキオイル	—	20	○
エチレングリコール	100	20	○
塩素水	飽和	20	○
エチレングリコール	100	20	○
エチルグリコールアセテート	100	20	○
パラフィン	—	20	○
Skydrol 500B4	—	20	○
Skydrol LD4	—	20	○
テレピン	—	20	○

## 1. 耐薬品性表示

○表示: ユークリート床材の試験片をそれぞれの薬品に28日間浸漬させた後で、ユークリート床材の重量と圧縮強度の変化を計り、重量の増減が3%以内で、かつ圧縮強度が試験前の70%以上を保っている場合。

△表示: 時々薬品がこぼれてもすぐに洗い流すが、蒸発してしまう場合には耐久性を有する。

×表示: 耐久性を有さない。

## 2. 耐酸性・耐アルカリ性

常温で、30%濃度までの酸性・アルカリ性薬品に継続的に晒されても、ユークリート床材は浸されません。

高温で、50%濃度以上の酸性・アルカリ性薬品でも、時々こぼれる様な場合、ユークリート床材は浸されません。但し、高濃度の薬品が床にこぼれた場合、直ちに洗い流すことをお奨めします。

## 3. 耐塩性

ユークリート床材は、ほとんどの無機塩及び有機塩類に浸されません。

## 4. 耐溶剤性

ユークリート床材は、溶剤に対しても耐性を有します。通常、揮発性溶剤は、床材がダメージを受ける前に揮発するためユークリート床材は浸されません。高比重の溶剤は、揮発しにくく、特に水の存在下では水槽により揮発が妨げられるため、長期間留まることがあります。このような場合には、ユークリート床材でも表面が柔らかくなり、結果として床材が浸されるケースがあるため、洗い流すことをお奨めします。

## 5. 薬品によっては、ユークリート床材表面を着色させる場合があります。